

平成 29 年 2 月 10 日
 震災復興・企画部震災復興・企画課
 産 業 部 観 光 課

気仙沼市震災遺構（旧気仙沼向洋高校）の保存範囲の見直しについて

1 これまでの経過

平成28年12月

- ・ ミシュランガイドや旅行エージェント，一般公開の参加者などから，南校舎だけでなく，校舎全体をそのままの状態に保存すべきとの意見が多く寄せられたことや，地域選出の委員を含む岩井崎プロムナードセンター検討会議（以下，岩プロ検討会議という。）でも保存範囲を広く取る意見が根強くあったことに鑑み，庁内で検討した結果，保存範囲を見直す必要があると判断（22日）
- ・ 市議会及び岩プロ検討会議にて説明，意見交換を実施（26日）
- ・ 見直しに時間を要することから，県に対し，解体工事の入札中止を依頼（27日）

平成29年 1 月

- ・ 県は，市の依頼に応じて，解体工事を中止（10日）
- ・ 岩プロ検討会議を開催し，保存や公開範囲等について意見交換を実施（18日）

岩プロ検討会議（平成29年 1 月18日開催）での主な意見

項 目	市たたき台内容	委員からの意見
保存する範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南校舎に加え，北校舎，総合実習棟，渡り廊下（折り重なった車を含む），生徒会館，体育館を保存範囲としたい。 ・ 保存工事の範囲は，内部公開する南校舎のみとしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね了承。 ・ 経年劣化を防ぐための工夫が必要。
内部公開する範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでと同様，南校舎の一部を公開範囲としたい。 ・ 公開範囲を広げた場合，見学ルートとなる廊下や階段は，安全対策や侵入対策のための改修が必要となり，ありのままを保存するという意義が失われることになる。 ・ また，清掃，補修，警備，消防などに係る維持管理費が増大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折り重なった車や避難状況を示す黒板も見学できるよう，内部公開する範囲を広げるべき。 ・ とりあえず，「残す」ということの重要性が最優先。公開範囲に関しては中長期的にどのように展開していくか，継続して議論する仕組みづくりが必要と考える。

岩井崎プロムナードセンター	これまで検討した諸室の面積は変更せず、震災遺構との動線距離を短くするための配置変更を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示室がまとめられ、ストーリー性が欠如したので、見直しを求める。 ・校庭部分には駐車場を造らず、隣接する民有地を市が買い上げ、そこを駐車場にすべき。
---------------	---	--

2 今後の予定

平成29年3月までに、岩プロ検討会議や地元関係団体等と、保存及び公開範囲の方針について、最終調整・確認を行う。

予定比較表

時期	従前	見直し後
平成28年度	遺構実施設計完了 岩プロ基本設計完了	遺構実施設計完了 岩プロ基本設計完了
平成29年度	解体工事完了 土地・建物の譲渡に関する契約締結 岩プロ実施設計完了 遺構工事開始 岩プロ工事開始	土地・建物の譲渡に関する契約締結 岩プロ実施設計完了 解体・遺構工事開始 岩プロ工事開始
平成30年度	遺構・岩プロ工事完了 遺構・岩プロ同時オープン	解体・遺構・岩プロ工事完了 遺構・岩プロ同時オープン